



とうえい

令和4年2月10日
東栄小学校
学校だより第10号

「当たり前」のありがたさ！

立春を過ぎ、春のやわらかな気配をかすかに感じる季節となりました。令和4年1月22日（土）に尾張旭市文化会館にて開催予定だった尾張旭市青少年健全育成推進大会が、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みて中止となりました。そこで、2月8日（火）オンラインによる学校集会では、ポスター入賞者と善行青少年表彰者の伝達表彰を行いました。また、代表児童が「僕の意見 私の考え」を発表しました。発表内容を一部紹介します。



ー 感謝の言葉についてー

「ありがとう」これは、誰が言っても言われても嬉しく、そして心が温まる言葉だと思います。たった五文字で人とのきよりがぐっと近くなる言葉は、これ以上ないと思います。感謝の気持ちは、生きていくうえで忘れてはいけない大切な気持ちだと思います。……「ありがとう」の反対の意味の言葉は、「当たり前」だそうです。それを知った時は、なるほどなと思いました。人に何かをしてもらうことが当たり前ではないことです。……自分に何かしてくれた時、自分を支えてくれた時は、心の底から感謝の言葉「ありがとう」を言おうと思います。……

私は、これまで「ありがとう」の反対語を考えたことがなかったので、心が強く動きました。コロナ禍のせいにして、「当たり前」でなくなった現実に愚痴をこぼしながら、周りの人たちへの感謝の気持ちを伝える「ありがとう」の言葉を、疎かにしがちであった自分をとても恥ずかしく思いました。「当たり前」に食べている給食はどうでしょうか？「ご馳走様でした」という食事後のあいさつは、日本独特の表現だと思います。大切なお客様をもてなすために走り回って食材を調達し、用意してもらったことへの感謝の気持ちを表す言葉だそうです。子どもたちには、食べ物のもとを育てる人、加工する人、配達する人など、多くの人のおかげで、毎日決まった時間においしい給食が食べられることに思いを巡らせ、感謝する機会にしてほしいと願っています。改めて、今の日常を振り返ると「当たり前」のありがたさに気付くことができるのではないのでしょうか？今日の給食の献立「わかめごはん、牛乳、すきやき、さばの照り焼き、おひたし」は、いつもの何倍も温かく、おいしさが心に染みしました。

～創立70周年今昔物語その9～

昭和60年、文化会館にて第3回尾張旭市小中学校音楽会が開催されました。東栄小学校の子どもたちは、先生の指揮に合わせて素敵なハーモニーで歌っていました。



(校長 井田 寿)